

令和 7 年(2025 年) 第 2 回 登録標識・路面標示基幹技能者講習(路面標示) 修了試験問題

修了試験実施日：令和 7 年(2025 年)11 月 14 日

修了試験実施場所：富士教育訓練センター

登録基幹技能者講習実施機関：一般社団法人全国道路標識・標示業協会

注意事項

- ① 携帯電話は電源を切り、カバンの中に入れてください。
- ② 試験問題は係員の指示があるまで開けないでください。
- ③ 解答用紙に受講番号と氏名を明記してください。
- ④ 正解と思う番号を解答用紙に記入してください。
- ⑤ 試験開始から 30 分が経過するまで及び試験終了 10 分前から終了時刻までは退出することができません。
- ⑥ 質問、体調不良、退室希望等は静かに挙手をしてください。
- ⑦ 試験問題は終了後に持ち帰ることができます。
- ⑧ 試験終了の合図があったら筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。
- ⑨ 解答は試験終了後約 1 週間後に全標協ホームページに掲載します。
- ⑩ 合格発表は令和 7 年(2025 年)12 月 10 日に全標協ホームページに掲載します。

一般社団法人全国道路標識・標示業協会

【基幹技能者一般知識】

問 1

登録基幹技能者に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 登録基幹技能者は、豊富な知識とマネジメント能力が求められている。
- ② 厚生労働大臣の登録を受けた機関が実施する登録技能者講習の修了者は、登録基幹技能者として位置づけられている。
- ③ 登録基幹技能者は、主任技術者要件の一つとして認められ、経営事項審査においても加点対象となっている。
- ④ 総合評価落札方式における施工能力の評価の一例として、登録基幹技能者の活用が示された。

問 2

建設キャリアアップシステム(CCUS)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設キャリアアップシステムは、技能者の処遇改善や技能の研鑽を図ることを目的に構築された。
- ② 建設業界の統一の能力評価基準により、技能者に対して4段階の技能レベルが付与される。
- ③ 技能者の能力評価は4段階で評価され、登録基幹技能者はレベル4に位置付けられている。
- ④ 現場や勤務先が変わっても、自らの能力を客観的に証明することが可能になる。

問3

登録基幹技能者に求められる能力に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 十分な経験を有し、出来上がりの検査、工事の是正ができる。
- ② 現場をまとめ、技術者、他の職長との調整能力を有する。
- ③ 安全管理に係る基本的な知識を有し、作業手順書の作成、KY活動、新規入場時の受入教育、SDGs への取組、作業改善等の安全管理活動ができる。
- ④ 原価管理に係る基本的な知識を有し、常にコスト意識をもって行動する。

問4

OJTに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① OJTは、作業を通じて技能者を指導・教育することである。
- ② OJTは、上司の仕事そのものであり、片手間にとか暇があるからという考えではなく仕事であるという認識をもつことが大切である。
- ③ OJTは、教育訓練計画を策定し効率的に行うため集团的に指導する。
- ④ OJT実施時は、外部との接触の機会を提供し、視野を拡大する機会を設ける。

問5

労働安全衛生法による安全衛生管理体制に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 労働安全衛生法では、労働者数に応じて事業場及び建設現場で安全衛生管理組織の設置が定められている。
- ② 労働者数が常時100人以上の事業場では、総括安全衛生管理者、安全・衛生委員会等の選任や設置が定められている。
- ③ 請負契約関係を持つ事業者が混在する現場労働者の合計が50人以上の建設現場では、統括安全衛生責任者、安全衛生協議会の選任や設置が定められている。
- ④ 事業者は、厚生労働大臣の免許を受けた者又は厚生労働大臣が指定する者が行う技能講習を修了した者の中から作業主任者を選定することが定められている。

問6

労働災害における事業者責任に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 事業者責任は、刑事責任と民事損害賠償責任及び行政責任がある。
- ② 刑事責任は、業務上過失致死傷罪と労働安全衛生法違反がある。
- ③ 民事損害賠償責任は、不当利得返還責任、不法行為責任及び債務不履行責任がある。
- ④ 行政責任では、建設業法に基づく行政処分他に労働安全衛生法に基づく労働基準監督署による行政処分が課せられる場合もある。

問 7

道路法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路法は、道路網の整備、管理、構造、保全、維持等を定め、もって交通の発展に寄与し、公共の福祉を増進することを目的としている。
- ② 重要物流道路は、全国的な貨物輸送網の形成を図り貨物積載車両の能率的な運行の確保を図ることが、特に重要と認められる道路である。
- ③ 国土交通大臣は、災害が発生した場合において、都道府県又は市町村からの要請を受けて、補助国道、都道府県道又は市町村道の道路啓開や災害復旧工事を行うことができる。
- ④ 道路標識、道路情報管理施設、区画線、横断歩道橋は、道路附属物である。

問 8

道路交通法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 道路交通法上の道路とは、道路法に規定する道路、道路運送法に規定する自動車道及び一般交通の用に供するその他の場所をいう。
- ② 道路交通法上の道路標示とは、道路の交通に関し、規制又は警戒を表示する標示で、路面に描かれた道路鋏、ペイント、石等による線、記号又は文字をいう。
- ③ 都道府県公安委員会が行う交通規制は、区域、道路の区間又は場所を定めて行う。
- ④ 都道府県公安委員会は、交通規制のうち、適用期間の短いもの(一月を超えないもの)を警察署長に行わせることができる。

問 9

道路標識、区画線及び道路標示に関する命令(標識令)の変遷に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 平成 26 年、道路交通法の改正に伴って規制標識「環状の交差点における右回り通行(327 の 10)」及び規制標示「環状交差点における左折等の方法(111 の 2)」が新設された。
- ② 令和 2 年、「大会関係車両等専用通行帯」は、オリンピック・パラリンピックの期間を限定して設置されることから、附則として規定された。
- ③ 令和 2 年、「歩行者横断禁止(332)」標識は、幼児等にもわかりやすくするため標示板の文字に「わたるな」を用いることができることになった。
- ④ 令和 2 年、災害が発生した場合に被害の拡大を防ぎ、災害の速やかな復旧をはかるため特定車両の停留施設が道路附属物として設置できることになった。

問 10

標識令の変遷に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 令和4年、遠隔操作型小型車が歩行者と同様の交通ルールが適用されることとなったため、「歩行者専用(325の4)」標識は「歩行者等専用(325の4)」に名称が変更された。
- ② 令和5年、原動機付自転車は、特定小型原動機付自転車(電動キックボード等)と、一般原動機付自転車とに区分されることになった。
- ③ 令和8年9月1日より、生活道路(道路幅員5.5m未満の中央線の無い道路)では法定速度が時速40kmとなる道路交通法が施行される。
- ④ 令和5年、規制標示「普通自転車歩道通行可(114の2)」は「特例特定小型原動機付自転車・普通自転車歩道通行可(114の2)」に名称が変更となった。

問 11

安全で快適な自転車利用ガイドラインに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 自転車専用通行帯の設置後も、歩道の「特例特定小型原動機付自転車・普通自転車歩道通行可(114の2)」の交通規制は実施する。
- ② 車道混在とする場合、自動車に注意喚起するための矢羽根型路面表示、自転車のピクトグラムを設置するものとする。
- ③ 自転車道とは、専ら自転車の通行の用に供するため、縁石や柵その他これに類する工作物により区画して設けられる道路の部分をいう。
- ④ 自転車のピクトグラムは、進行方向に対して左向きとし、矢印との組み合わせを標準とし、白色系を基本とする。

問 12

施工管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 建設工事には、製造業と比べ、「受注一品生産である」、「土地の制約を受ける」、「自然に左右される」、「社会的制約を受ける」という特徴がある。
- ② 適切に施工管理を行うためには、「計画、実施、記録、点検」の4段階のサイクルを繰り返し実行することが基本となる。
- ③ 建設工事の品質、工程、原価の管理は、それぞれ独立したものでなく、施工管理によって相互に関連している。
- ④ 施工管理の管理項目として、品質管理、原価管理、工程管理、安全管理に加え、環境保全管理がある。

問 13

環境保全対策等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 地域住民への説明会は、工事着手前に地区自治会等を通じて行い、工事の目的、内容、環境保全対策等について説明する。
- ② 工事の作業時間は影響の少ない時間帯とし、夜間、早朝の作業を避けるなど作業工程の設定を行う。
- ③ 建設工事の騒音・振動対策の基本は、受振点・受音点での対策である。
- ④ 工事に伴う沿道交通への影響に対しては、資材の運搬のための工事用車両による交通障害等について事前に十分調査し、対策を行う。

問 14

作業計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工要領書には、設計図に明示されていないもの、もしくは各種の事情により明示しにくいものについて、現場条件を考慮して検討し明示する。
- ② 施工要領書は、工種、職種の違いなく、関係作業員全員参加の下で説明する。
- ③ 作業手順書は、誰がやっても基準どおりに同じ結果が得られるように作成する。
- ④ 作業手順書の作成に当たっては、登録基幹技能者や安全衛生責任者が中心となって、作業員の意見を聞き、それらを加味して作成することが望ましい。

問 15

工程管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 工程表には、バーチャート、ガントチャート、斜線式工程表、グラフ式工程表、出来高累計曲線、工程管理曲線及びネットワーク式工程表がある。
- ② バーチャートは、縦軸に作業、横軸に各作業の完了点を 100%として、その達成度を示すものである。
- ③ ネットワーク式工程表の特徴は、作業手順、作業の相互関係がわかることである。
- ④ 1日当たりの平均施工量は、 $\frac{\text{工事量}}{\text{作業可能日数}}$ で算定する。

【原価管理】

問 16

原価管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 原価管理のスタートは、発注者と契約するために見積書を作成することである。
- ② 実行予算は、現場条件に合った具体的な施工計画を作成し、その工事を実行するのに必要な費用を予測・算出したものである。
- ③ 予算実績管理は、実行予算と実績を比較しながら差異を把握し、目標利益を達成することが困難な場合は直ちに原価低減の活動を実行する。
- ④ 原価要素は、建設工事では、設計費、労務費、経費、外注費の4要素に分類するのが一般的である。

【品質管理】

問 17

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 施工品質は、発注者と施工者で決定する。
- ② 品質を構成する特性を品質特性という。品質特性は具体的な数値で表示されることが望ましく、それを品質特性値という。
- ③ 重要品質項目に則して、総合工事業者は「施工計画書」や「施工要領書」で施工の具体的な方法を計画する。
- ④ 登録基幹技能者は、作業標準書を熟知し、施工チーム内にその内容が効果的に伝達されるようにしなければならない。

問 18

品質管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① QC 7つ道具とは、特性要因図、チェックシート、層別、パレート図、管理図、ヒストグラム、散布図である。
- ② チェックシートとは、特性要因図等で整理された要因の発生状況を把握するためのシートである。
- ③ 層別とは、対象をいくつかの層(グループ)に分けることであり、層別にしてまとめたものをヒストグラム等で作図すると問題の要因を明らかにしやすい。
- ④ パレート図とは、時間の経過による品質特性値の変化を追うものである。

【安全管理】

問 19

安全管理に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① ハインリッヒの法則では、1件の重大災害(死亡・重症)が発生する背景には、29件の軽微事故と300件の「ヒヤリ・ハット」があるとされている。
- ② 建設業の安全対策が難しい理由の一つは、単調な反復作業が続くことである。
- ③ 重大災害とは、一時に3人以上の死傷者が発生した場合の災害のことである。
- ④ 公道上での作業では、作業員を作業帯の外では作業させず、誘導員も可能な限り作業帯内で誘導する。

問 20

安全対策に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 安全施工サイクルは、建設現場の日常業務の中に、さまざまな安全活動を組み入れていくものであり、作業前の安全朝礼も入る。
- ② リスクアセスメントは、足場や機械設備などの設置・変更時、作業標準や作業手順などの作成・変更時などの際に実施する。
- ③ 安全指示がうまく伝わらない原因として
1.指示が一方向的である 2.的外れな指示である 3.指示が曖昧である
などがあげられる。
- ④ KY活動においては、「危険のポイント」ごとに対策を話し合い、「合図の徹底」、「足元注意」等の目標を立てる必要がある。

【路面標示の設置】

問 21

路面標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示は、様式化された線及び文字、記号を路面に設置することにより、交通の安全と円滑を確保し、併せて道路構造物等の保全を図るために設けることを目的としている。
- ② 路面標示の様式、設置者の区分、設置場所、その他必要な事項は「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令(標識令)」に規定されている。
- ③ 路面標示は、標識令に規定されている「区画線」と「道路標示」、交通の安全と円滑の確保のために用いられる「法定外表示」がある。
- ④ 区画線のうち「車道中央線(101)」、「車線境界線(102)」は、それぞれ道路交通法の「中央線(205)」、「路側帯(108)」とみなされる。

問 22

路面標示の種類に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「転回禁止」は規制標示である。
- ② 「横断歩道又は自転車横断帯あり」は規制標示である。
- ③ 「斜め横断可」は指示標示である。
- ④ 「止まれ」の文字表示は法定外表示である。

問 23

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示は、交通運用と密接な関係があり、交通をどのように運用するかを十分に考慮して設計しなければならない。
- ② 車線幅員は、3.00m、3.25m、3.50mの3段階と定めている。
- ③ 「車道外側線(103)」は、その線の内側から車線幅員をとる。
- ④ 「車線境界線(102)」は、その線の中心から車線幅員をとる。

問 24

路面標示の設置計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 交差点部における設置計画において、付加車線、特に右折車線は積極的に設置すべきである。
- ② 「停止線(203)」の設置は、横断歩道の手前1m～5mの位置に設ける。横断歩道と車道が直角でない場合は原則として車道に対して直角に設ける。
- ③ 「横断歩道(201)」の設置において、急な坂若しくは坂の頂上付近又は見通しのきかない道路の曲がり角及びその付近には設置しない。
- ④ 「進行方向別通行区分(110)」(矢印)は30mの実線内に1個設置し、その手前に必要があれば破線の予告矢印を設置する。

問 25

区画線に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「車道外側線(103)」で塗料による標示が困難な場合には、道路鋏で表示する。車道外側線の補助として用いる場合もあり、車道外側線上又は外側線の内側(車道側)に設置する。
- ② 「車線境界線(102)」は、原則として白色破線とするが、法定の追越し禁止区間では白色実線、進路変更禁止規制区間では黄色実線で設置する。
- ③ 「導流帯(107)」は、変形の交差点又は線形が複雑な場所等に用いる。
- ④ 「路上障害物の接近(106)」を表示する場合は、路上障害物の幅の長さより片側最低 20cm 両側最低 40cm 長い値を設置するのが望ましい。

問 26

道路標識及び道路標示の設置区分で、道路標示のみを設置するとされているものはどれか

- ① 進行方向別通行区分(110)
- ② 信号機の設置がある横断歩道(201)
- ③ 前方優先道路(211)
- ④ 追越しのための右側部分はみ出し通行禁止(102)

問 27

道路標示に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 「横断歩道(201)」の設置について、白線と白線の設置間隔は、道路形状や交通状況等に応じて45cm～90cmの間から選択し設置する。
- ② 横断歩道上に設置する視覚障がい者が横断方向の手がかりとする突起体の列について、色は黄色とする。
- ③ 「横断歩道(201)」に「自転車横断帯(201の3)」を併設する場合、横断歩道に接する側の側線については省略することができる。
- ④ 横断歩道等の手前に一時停止規制があるなど、歩行者等の通行を妨げるおそれがない場合は、道路標示「横断歩道又は自転車横断帯あり(210)」を省略することができる。

【路面標示の材料・施工】

問 28

路面標示用塗料に必要な条件に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 耐久性と速乾性に優れている材料を選ぶ。
- ② 路面標示の種類、道路条件、交通条件などに適した施工法を選ぶ。
- ③ 施工においては、車両、歩行者等の通行安全を確保し実施する。
- ④ 路面標示材の品質検査は施工後に行う。

問 29

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)の適用に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1種(常温)塗料のタイヤ付着性試験は、「10分後に塗料がタイヤに付着しない」と規定されている。
- ② 2種(加熱)塗料の耐摩耗性(100回転当たりの摩耗減量 mg)は 500以下でなければならない。
- ③ 3種(熔融)塗料の耐摩耗性(100回転当たりの摩耗減量 mg)は 200以下でなければならない。
- ④ 拡散反射率について、1種(常温)及び2種(加熱)は 80%以上、3種(熔融)は 75%以上としている。

問 30

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 1種(常温)塗料の「低温造膜性試験(Aのみ)」は、低温環境下で塗布及び乾燥し、塗膜形成に異常がないかを調べる試験である。
- ② 2種 A(加熱)塗料の粘度(KU値)は、塗料の粘性度を示すもので、主として作業性に関係する。
- ③ 3種(熔融)塗料の隠蔽率は、路面に設置された路面標示の色の認識程度を判定する数値である。
- ④ 路面標示材料には貼付材や道路鋏や標示筒などがある。

問 31

路面標示用塗料(JIS K 5665:2018)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 3種(熔融)黄色塗料は、JIS 指定の道路標示黄色(マンセル参考値 5.5YR6.5/12)によるものとされている。
- ② 3種(熔融)塗料の黄色度は、黄色塗料の熔融加熱時における変色度合いを判定する基準になる。
- ③ 3種(熔融)塗料の軟化点は、80℃以上である。
- ④ 3種1号(熔融)塗料のガラスビーズ含有量は15%~18%(質量分率)である。

問 32

路面標示用塗料の視認性に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 路面標示部分が雨天により冠水又は湿潤状態になった場合、ガラスビーズの表面が水膜により反射経路が変化し視認性が低下する。
- ② 屈折率 1.9 の高屈折率ガラスビーズは、屈折率 1.5 の JIS 規格ガラスビーズに比べ高い視認性が得られる。
- ③ ガラスビーズの粒度分布は、塗料への散布の良否、固着強度、塗膜中への状態及び視認性などに影響を与える。
- ④ 高屈折率ガラスビーズの屈折率が 2.0 以上になると、湿潤時に再帰反射性能が低下する。

問 33

路面標示用ガラスビーズ(JIS R 3301:2014)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① JIS 規格の路面標示用ガラスビーズの比重は 2.4~2.6 である。
- ② 路面標示用の JIS 規格ガラスビーズの材質は、ソーダ石灰ガラスである。
- ③ ガラスビーズの鉛含有量は 500mg/kg 以下である。
- ④ 再帰反射はガラスビーズが透明で球形のときに得られる特性であり、だ円、鋭角、不透明、異物等の混入率は、20%以下と規定されている。

問 34

路面標示塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 常温・加熱式工法では塗料及びガラスビーズの圧力、塗料温度、ラインマーカの走行速度によって標示の品質が決まる。
- ② 加熱式工法における車載式ラインマーカは 4km/h~10km/h で走行させる。
- ③ 2種(加熱)塗料は高粘度であるため、熱交換機を通して A は 40℃~60℃、B は 50℃~80℃に加熱し、粘度を低くして塗装する。
- ④ 新設コンクリート路面にレイタンス層(脆弱層)があっても 2種(加熱)塗料で施工する場合は加熱温度を高くして塗装する。

問 35

路面標示塗料(JIS K 5665:2018)の施工に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 溶融式工法において、固化が速すぎると収縮歪みが発生し散布ガラスビーズの固着が悪くなり、また、固化が遅すぎると散布ガラスビーズが塗膜内に沈降し反射能力が低下する。
- ② 3種(溶融)塗料において施工する路面の温度が低いと剥がれが生じるため、気温が5℃以下の場合は施工を見送る。
- ③ 溶融式工法によるセメントコンクリート舗装への冬季の施工では、塗膜収縮が小さいのでそれに対応した品質管理が必要である。
- ④ 3種(溶融)式施工で発生する小さな膨れやピンホールなどは、路面の小孔から水蒸気が上昇することなどが原因と考えられる。

問 36

路面標示の消去に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 切削法は、物理的消去方法である。
- ② 黒ペイント塗布は、物理的消去方法である。
- ③ 燃焼法は、物理的消去方法である。
- ④ ブラスト法は、物理的消去方法である。

問 37

路面標示の点検に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 点検の目的は、第一に管理する路面標示の変状を早期に発見することであり、第二は、変状の程度の把握を行うことである。
- ② 点検項目として、剥離、汚れなどによる不鮮明部分の有無などがある。
- ③ 路面標示の摩耗は「交通量別」「舗装種類別」「大型車混入率」等に関連する。
- ④ 黄色標示の色は、ガラスビーズを散布した状態で「道路標示黄色色見本」と比較し確認する。

問 38

路面標示の塗り替え基準に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 剥離率の測定は、摩耗、剥離、劣化等による塗膜の欠損部分の割合を、全体画像から測定する。
- ② 道路の状況、交通状況により、夜間の視認性を確保する必要があるところでは、塗り替えの際、高視認性の路面標示材料を採用するのがよい。
- ③ 目視評価ランク 3 の評価内容は「早期措置段階」であり、摩耗又は剥離により標示全体の形状は維持されているものの経時による表面の劣化、割れ、クラックが見られる状態であるため塗り替えが望ましい。
- ④ 排水性舗装を代表とする空隙率が高い舗装の場合は、路面標示摩耗の進行が遅い。

問 39

法定外表示等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① 新たに法定外表示を考案、設置する場合には、一見してその意味が理解でき、標識令に基づく道路標識の様式と類似の形態(図柄等)とする。
- ② 法定外表示等の設置・管理等に当たっては、各都道府県警察と道路管理者とで設置内容や設置主体等を含めて調整を図る必要がある。
- ③ 法定外表示等とは、標識令や関係法令で定められたもの以外の路面表示やカラー舗装、看板類である。
- ④ 「交差点クロスマーク表示」は、中央線のない道路が交差する十字路又は丁字路交差点で、道路の交差が不明確な場合に設置する。

問 40

法定外表示等に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか

- ① バスレーンのカラー舗装は、路上駐車やレーン内への進入を抑制し避讓義務を確認させ交通事故抑止を目的として設置される。
- ② バスレーンのカラー舗装は茶色系を基本とするが、景観保全の観点から地元の意向等によりそれ以外の色にしてもよい。
- ③ バスレーンのカラー舗装を行う道路に設置されているバスベイについては、バスベイ内のカラー舗装は実施すべきか否か判断する。
- ④ 歩行者保護のためのカラー舗装は、小学校周辺のみが対象である。

問題は以上です

受講番号

氏名

共通は標識にリンク

【基幹技能者一般知識】

1	2	3	4
2	2	3	3

【建設業法・安衛法】

5	6
4	3

【道路法・道路交通法】

7	8
4	2

/8

【標識令改正】

9	10	11
4	3	1

【施工管理・環境保全対策・作業計画・工程管理】

12	13	14	15
2	3	2	2

/7

【原価管理】

16
4

【品質管理】

17	18
1	4

【安全管理】

19	20
2	4

/5

共通 合計

/20

【路面標示の設置】

21	22	23	24	25	26	27
4	2	2	4	4	2	2

/7

【道路標示の材料・施工】

28	29	30	31	32	33	34
4	1	3	2	4	3	4

/7

【路面標示の維持管理・塗り替え基準】

35	36	37	38
3	3	4	4

【法定外表示の設置等】

39	40
1	4

/6

専門 合計

/20